

郷土こぼれ話

地域の神様 (11) ^{こかげ}蚕影大神 (柿沼)

— 村田政良さんにお話を伺いました —

^{こかげ}蚕影神社は、柿沼北廓（小字）地区の神様です。北廓にある養蚕の神様です。創建された年は昭和11年12月です。石の碑の裏には、19名の人々の名前と作られたときが彫られています。世話人と書かれた二人の人を中心にして、現在のつくば市にある蚕影神社から分霊していただいたものです。また、甲信陸野武総の諸州にある蚕の神様は皆、つくばの蚕影神社の御分霊であると言われています。

主神は、稚産霊神(わくむすびのかみ)です。この神様は五穀の神・養蚕の神といわれています。ご利益は、農業守護・五穀豊穰・開運招福・災難除け・子孫繁栄です。養蚕だけでなく、幅広いご利益が地域の人々を護ってきました。

毎年3月最後の日曜日には、廓の全員で掃除をし、お祓いを受けて榊を奉奠します。以前は3月28日でしたが、今は生活

の変化から、皆さんが参加しやすい日に設定しました。3月28日は、つくばの蚕影神社の蚕糸祭



^{こかげ}蚕影大神

(豊蚕祈願祭)の日です。

柿沼の蚕影神社のお祀りでは、5人の用掛が中心となり祭詞と繭玉団子を奉納します。繭玉はその場や帰宅後にいただきますが、醤油をつけてはいけないと言われています。これは、繭が傷んでしまわないようにという考えからです。祭詞は、用掛がその時に合ったように直して捧げます。古い資料の中に昭和13年、今から80年前の、(片倉石原製絲所案文)と書かれた祭詞の案文があります。今では大切な資料として伝えられています。当時の五穀蚕桑に対する地域の人々の思いが偲ばれます。

今から、60年位前には大祭と例祭が交互にあり、大祭には映画会や浪曲の会が催されたことがありました。また、直会も盛大に行われたことがあります。当時は、かいことは言わず、「お蚕様」や「お蚕様」と呼んでいました。地域の生活を支えてくれた、大切な養蚕への思いからでしょう。

蚕影神社は、地域の人々にはとても身近な神様です。そのため、地域の方は親しみを込めて蚕影さんと呼んでいます。地域を支えてくれた神様、蚕影さん。これからも、私たちを支え続けてくださるとともに、私たちも、感謝の気持ちを持ち続けなければならないと思います。

人々の生活様式は、変わってきています。しかし地域を支えた養蚕を後押しして、地域の人々に勇気とたくさんのご利益を与え続けてくださった蚕影さんを、蚕がいなくなり桑原がなくなった今も、これからも大切にしていきたいと思います。

文・写真：むらた ひとし

大幡公民館だより 平成29年10月号